



# kodotomo クリエイト 子どもと共に創るまち

～ ヤングケアラーへの理解を深め、  
子どもが子どもらしくいられるまちへ ～



ヤングケアラー・シンポジウム開催  
2023. 2. 4 浦安市民プラザ WAVE101

## ■協働パートナーの種別

<input type="checkbox"/> NPO	<input type="checkbox"/> 地縁	<input type="checkbox"/> 社協	<input type="checkbox"/> 学校・ 大学	<input type="checkbox"/> 企業	<input type="checkbox"/> 行政	<input type="checkbox"/> その他
------------------------------	-----------------------------	-----------------------------	------------------------------------	-----------------------------	-----------------------------	------------------------------

## ■事業運営団体

- ・肢体不自由児きょうだいの会 ぞうさん組
- ・HSP/HSC リンクパートナー「Heart Smile Present」
- ・オムソーリ・プロジェクト

## ■協働パートナー

- ・浦安市 ・浦安市教育委員会 ・地域包括支援センター
- ・こども家庭支援センター ・浦安市社会福祉協議会
- ・スマイルこども食堂浦安 計6団体

## ■事業費 3万円

## ■資金調達手段 運営団体負担

### 事業概要

ヤングケアラーをはじめ、声をあげられない、声を歪められ困難を抱える子どもたちが存在している。困難を抱える子どもたちが必要な時に助けを求めることができ、寄り添いながら解決できる仕組みの構築が求められている。

ケアの内容や対象が多岐にわたるため、支援には多様な立場や職種の連携が必要である。特に福祉と教育の分野の連携は不可欠である。

当事者を支援してきたなかで、当事者の想いや声が聞き入れられず置き去りになっていたり、一方的な支援になっている現状に気づく。当事者に近い市民活動の立場から行政と共に勉強会・シンポジウムを通じて活動を始めた。

### ○ 協働までの経緯

障がい福祉、高齢者福祉、社会教育、それぞれの団体がヤングケアラーをはじめとしたこどもの支援の必要性や問題意識を共有し合ったことから活動をスタート。行政と市民が共通認識を形成しながら具体的な支援につなげていくことを目的にシンポジウムを企画。シンポジウムの前後には勉強会や対話の場を複数回設定し、行政や市民活動団体の顔が見える関係性づくりを意識しながら進めてきた。

### ○ 主な事業内容(年間スケジュール等)

#### ①連携団体勉強会 (2022年8月～2023年7月までに全11回)

連携団体同士でヤングケアラー、子ども・若者アドボカシーについての勉強会を実施。

#### ②ヤングケアラー勉強会 (2022年11月～2022年2月までに全3回)

ヤングケアラーに関わる浦安市の福祉部、こども家庭支援センター、地域包括支援センター、浦安市教育委員会等の行政関係者のほか、こども食堂、社会福祉協議会、スクールライフカウンセラー等の多様なステークホルダー参加の元、ヤングケアラーについての知識や認識の共有を図った。

### ③ヤングケアラー・シンポジウム（2023年2月4日）

浦安市のヤングケアラー実態調査の中間報告、元ヤングケアラー本人の語り、グループ・ディスカッション

3部構成で実施。シンポジウム参加者から有志を募り、LINEグループ「ヤングケアラー・プロジェクト URAYASU」をスタート。

### ④ヤングケアラーお話し会（2023年2月23日）

ヤングケアラー・シンポジウムに参加できなかった方、さらに意見交換をしたい方が集い、ヤングケアラー支援のあり方や今後の活動について対話を行った。

### ⑤まちづくりフェスタ「with」ヤングケアラーの映画とお話し会

ヤングケアラー啓発動画『陽菜のせかい』鑑賞

### ⑥子どもアドボカシー勉強会（2023年7月7日）

※今後も継続して開催

※上記の他にも、シンポジウムに参加者同士で新たな連携・協力が生まれ活動を実施しています。

## 📍 主な協働パートナーとの役割分担

#### 1. 肢体不自由児きょうだいの会 ぞうさん組

障がい児の親が中心の団体のため、特別支援学校や障がい福祉課、障がい事業課、発達センター等、障がい福祉関係に繋がりがあったため、協力を願えた。

#### 2. HSP/HSCリンクパートナー 『Heart Smile Present』

HSP/HSC(Highly Sensitive Person/Child)の周知活動のため、教育委員会依頼の研修を行ってきたところから活動で既に連携していた。

感受性の強いHSPIには元ヤングケアラーの方も多く、シンポジウムでも団体メンバーに当事者として登壇していただきお話をうかがう。

#### 3. オムソーリ・プロジェクト

2013年から認知症カフェを運営。認知症に関する活動や、ケアラー相談の場を続けてきた強みを活かし、地域包括支援センターや社会福祉協議会など高齢者部門の協力

## 📍 協働事業によって生まれた成果

#### \* 組織としての成長

(kodotomo クリエイト設立)

ヤングケアラーの支援体制の構築のため、ヤングケアラーをともに学び合い共通認識を創るころからスタートした。行政の関係各部署、市民活動団体、(シンポジウム参加者を加えての新しい団体活動開始)

kodotomo クリエイト

・シンポジウムや勉強会の参加団体間での交流が生まれた。

社会福祉協議会、こども食堂、了徳寺大学、ボランティア、老人福祉センターでケアラー体操。

## ♡ コラボのコツ!!

☆コツ1：ともに学び、対話する場をつくる

☆コツ2：シンポジウムで仲間を増やす

☆コツ3：当事者の語りから、一緒に考える

ヤングケアラーのケアの対象者や内容は多岐に渡り、支援者のそれぞれの立場で見え方が変わってくる。

障がい福祉、高齢者福祉、社会教育、それぞれの視点で課題を共有し合うことができました。

解決策ありきではなく、課題認識の共有から始めたことで、生産的な対話が生まれ、具体的事業につながっています。

最も大事なものは当事者の声を聴くことであるという共通認識ができたことから、子どもアドボカシーについて学び合うシンポジウムを企画しているところです。

## 別添様式 事例紹介用調書

### ○ぞうさん組

司法書士と繋がり、特別支援学校の講演監修や肢体不自由児者・親の会での講演が決まった。こども食堂とはこどもたちの居場所作りに向けてのイベントが決まり、スクールカウンセラーとは、他市のきょうだい支援団体と繋げていただきました。多方面の方々と繋がりが出来たことでたくさんの方の影響を受け、イベントに参加させていただく機会が増えたり、イベントを開催することができるようになった。

### ○HSP

今までは研修依頼などをいただく教育委員会が行政との繋がりの大半であったが、横の繋がりが増えることで、所属部課を超えて、HSP/HSC について関心を持っていただく機会が増え、講習会、勉強会にご参加いただくようになった。

シンポジウムでは、団体メンバーの元ヤングケアラーの方に登壇していただいたことで、参加者には当事者の声を聴く貴重な機会に、当事者にとっては人生を振り返る癒しの時間となり、双方にとってとても有意義な時間となった。

### ○オムソーリ・プロジェクト

認知症カフェを通じた活動では祖父母の認知症ケア、若年性認知症の両親のケアという視点に限られていたが、教育関係、障がい福祉関係など幅広い方々へヤングケアラーの情報を届けられるようになった。コミュニティ・ペーパー等でヤングケアラーの取材が入るなど、情報発信力が大きく増した。

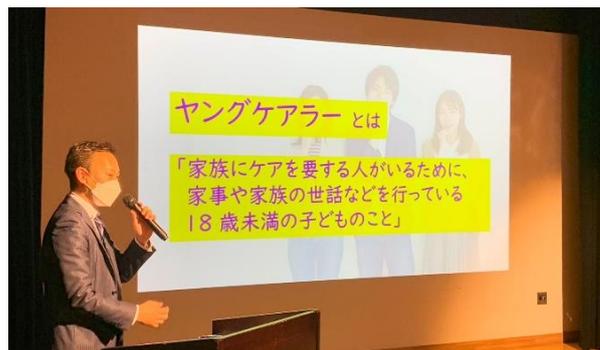
連携団体、協働パートナーともに、自分たちの専門外の視点を持つことができました。ヤングケアラーや子どもの支援に限らず、シンポジウム参加者間で様々なコラボレーションが生まれました。

例) 老人福祉センターでのケアラー健康体操、司法書士による講演

### ○今後力を入れていきたいこと

○力を入れていきたいこと 1 了徳寺大学との協力で学生に向けた講義、協力した事業展開

○力を入れていきたいこと 2 こども食堂と連携した居場所づくり



### 協働事例プロフィール

【活動開始年】 2022年 【活動のPR手法】 各団体のSNSにて告知 【この事業で活用した補助金】 なし

【表彰歴・マスコミ掲載歴等】 浦安新聞(2023年6月)「ヤングケアラーについて知っていますか？」

浦安に住みたい！WEB(2023年2月)

【問い合わせ先】 担当者：斉藤 哲(オムソーリ・プロジェクト)

電話番号：090-6042-7672

メールアドレス： omsorg.saito@gmail.com